

令和3年度 社会福祉法人淳邦会 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール

デイサービスセンター オパール

オパール居宅介護支援事業所

福田高齢者支援サブセンター

グループホーム ひなぎく

育成推進室

令和 3 年度 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘
(ショートステイを含む)

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや事故予防、感染予防、健康観察に重点をおいて安全で安定した生活が送れるよう支援を行った。

面会制限や恒例行事の中止など楽しみの少ない中でも安心して生活が送れるよう共有できる時間を大切に過ごし、行事を工夫して行うことで入居者の笑顔が少しでも引き出せるように取り組んだ。

事故においてはリスク委員会を中心にした情報共有と研修開催で予防に努めた。

感染対策においては日々の対策の徹底（マスク着用や手指消毒、定期的な換気、消毒など）により職員全体で取り組んだ。健康観察については入居者だけでなく職員も細心の注意を持って健康管理に努め、不調などには早期の対応を心がけた。

最適なサービスの提供においては、人員不足の中多職種で協力しケアプランを継続的に見直し実施につなげた。

看取り介護においては入所者や家族の意向に沿って 9 事例対応した。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染対策を実施した中で実習生の受入れを行った。コロナウイルスの市中感染による実習の変更等にも柔軟に対応した。

地域の関係機関と連携し緊急の対応も柔軟に行った。

・優秀な福祉人材を育成する

WEB 研修を活用し研修を実施した。また、密にならないよう研修方法を工夫し委員会主導の研修を計画的に実施した。

感染対策を行なった上で外部から講師を招き研修を開催した。

・人が活きる職場環境を整備する

リフトや電子記録の導入により職場環境改善を行った。

電子記録導入においては計画的に実施し、記録を活用する職員を中心に検討を重ねながら導入を進めた。

・安定した経営を継続する

平均稼働率は 91.8%（目標 95%、令和 2 年度実績 90.9%）と微増となった。

ショートステイは 34.1%（目標 43%、令和 2 年度実績 23.1%）と 11 ポイント増加となった。

武田病院と合同で毎週開催する効率化推進会議において空床管理をすすめ、スムー

ズな入居が出来るように次候補の確保に努めた。

- ・ **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

尊厳の視点に立って、虐待防止においては研修の実施、身体拘束はゼロ、不適切ケアにおいても研修等で振返りを行なうことで権利擁護に努めた。

安全対策においては消防避難訓練及び地震対応訓練を実施、福祉避難所においては台風時期に速やかに受入数を報告するなど柔軟に対応した。

令和 3 年度 事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや事故予防、感染予防、健康観察に重点をおいて安全で安定した生活が入居者のペースで送れるよう支援を行った。

面会制限や恒例行事の中止など楽しみの少ない中でも安心して生活が送れるよう行事等を工夫し入居者の笑顔が少しでも引き出せるように取り組んだ。また、居室の整備に努め心地いい環境づくりを継続するとともに定期的なミーティングで対応をこまめに検討し入居者の生活のペースを重視した支援を行った。

事故においてはリスク委員会を中心にした情報共有と研修開催で予防に努めた。

感染対策においては日々の対策の徹底（マスク着用や手指消毒、定期的な換気、消毒など）により職員全体で取り組んだ。健康観察については入居者だけでなく職員も細心の注意を持って健康管理に努め、不調などには早期の対応を心がけた。

最適なサービスの提供においては、人員不足の中多職種で協力しケアプランを継続的に見直し実施につなげた。

看取り介護においては入居者や家族の意向に沿って柔軟かつ丁寧に 2 事例対応した。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染対策を実施した中で実習生の受入れを行った。コロナウイルスの市中感染による実習の変更等にも柔軟に対応した。

従来型特養と一体的に取り組み、地域の関係機関と連携し緊急の対応も柔軟に行った。

・優秀な福祉人材を育成する

WEB研修を活用し研修を実施した。また、密にならないよう研修方法を工夫し委員会主導の研修を計画的に実施した。

感染対策を行なった上で外部から講師を招き、従来型特養と一体的に研修を開催した。

・人が活きる職場環境を整備する

電子記録の導入により職場環境改善を行った。導入は計画的に実施し、記録を活用する職員を中心に検討を重ねながら導入を進めた。

・安定した経営を継続する

今年度の平均稼働率は 92.6%（目標 95%、令和 2 年度実績 88%）目標には届かなかったが、毎週開催する効率化推進会議で空床管理をすすめ、スムーズな入居が出来

るように次候補の確保に努めた。

- ・ **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

尊厳の視点に立って、虐待防止においては研修の実施、身体拘束はゼロ、不適切ケアにおいても研修等で振返りを行なうことで権利擁護に努めた。

安全対策においては消防避難訓練及び地震対応訓練を定期的に実施した。

I 入所者の状況

【入退所状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者	2	0	3	1	1	2	0	4	2	2	3	2	22
退所者	0	2	3	1	1	2	3	1	2	3	2	1	21

【介護度別入所者延べ人数】

従来型(50)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	56	62	424
要介護3	436	452	428	440	396	351	372	406	426	403	323	379	4812
要介護4	514	526	461	434	427	468	351	400	484	498	456	496	5515
要介護5	431	450	438	444	509	523	558	554	461	455	434	479	5736
稼働率	96.1	96.1	90.7	89.0	89.9	89.5	86.6	93.2	92.5	91.5	92.6	93.4	91.7

地域密着型(20)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	30	31	30	31	31	30	31	30	62	62	56	62	486
要介護3	270	270	266	284	314	297	310	248	186	212	203	272	3132
要介護4	180	186	180	173	102	150	155	120	124	110	84	93	1657
要介護5	90	93	90	93	93	90	119	146	158	159	168	186	1485
稼働率	95.0	93.5	94.2	93.7	87.1	94.5	99.2	90.7	85.5	87.6	91.3	98.9	92.6

注)入所者数は、医療機関への入院者は除く

【要介護度】

令和3年3月31日 現在

	1	2	3	4	5	平均要介護度
従来型	1	2	13	16	16	3.92
ユニット型	0	2	9	3	6	3.65
合計	1	4	22	19	22	3.84

II 短期入所(ショートステイ)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用人数	12	13	15	17	20	16	15	15	13	17	19	17	15.8
利用延べ日数	167	182	191	253	272	213	201	193	177	183	220	234	207.2
人数／1日	5.6	5.9	6.4	8.2	8.8	7.1	6.5	6.4	5.7	5.9	7.9	7.5	6.8
平均介護度	3.07	3.32	3.22	2.66	2.68	2.58	2.89	2.57	2.44	2.94	2.97	3.26	2.88
稼働率	28.1	29.4	31.8	40.8	43.9	35.5	32.4	32.2	28.5	29.5	39.3	37.7	34.0

令和3年度 事業報告

在宅支援部
ケアハウス オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

新規入居者が5名となった今年度は、入居直後のサポートを丁寧に行い、相談しやすい環境づくりに努めた。面会や外出の制限の中で生活が安定して継続できるように個別の支援も行うなど柔軟に対応した

毎月の行事の中で感染対策勉強会等を開催し、自立意識や健康の向上に努めた。

感染予防のため行事外出を制限したため地域活動への参加支援は行えなかった。

リスク委員会での事例研究をスタートに事例報告をまとめ岡山県の事例研究会に応募した。

・安定した経営を継続する

今年度の平均稼働率は86.4%と目標の95%には届かなかった。入院者も多く入院日数は277日となった。入院日数削減のため健康観察や家族との連絡に努めるとともに、体調不良時には早期の受診を促すなどの支援を行った。

I 入居者の状況

【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男 性	103	93	90	93	93	90	114	120	124	125	158	186	1389
女 性	300	332	311	310	310	270	279	258	261	249	252	279	3411
合 計	403	425	401	403	403	360	393	378	385	374	410	465	4800
稼働率	89.6	91.3	89.1	86.6	86.7	80.0	81.9	84.0	82.8	80.4	97.6	100.0	87.5

【退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男 性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女 性	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	5
合 計	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	6

【年齢構成】 令和3年3月31日 現在

年 齢	60～70歳	71歳～80歳	81歳～90歳	91歳以上	合 計
人 数	0	3	10	2	15

II 介護状況

【要介護度】 令和3年3月31日 現在

介護度	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	3	0	3	5	3	1	0	0	15

【介護サービス利用状況】 令和3年3月31日 現在

介護サービス	ホームヘルプサービス			デイサービス	デイケア	福祉用具 レンタル	訪問看護
	生活援助	身体介護	介護タクシー				
利用人数	11	3	4	6	2	9	3

令和3年度 事業報告

在宅支援部
デイサービスセンター オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

グループ別活動プログラムの開始によりご利用者の意欲が向上し、在宅生活の継続に視点をおいた通所介護計画を実行することができた。メニューの多いグループ別活動プログラムや個別のリハビリテーションの実施は、ご利用者の利用時間の有効活用につながった。

アクリル板の設置やソーシャルディスタンスの確保、手洗いやうがいの習慣化を継続し感染予防支援を行った。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

市中のコロナウイルス感染拡大等で日程の変更等はあったが、感染予防を行い、各職種で連携し丁寧に実習生を受け入れた。新しい形の地域交流は実施することができなかった。

・優秀な福祉人材を育成する

WEB等を活用した研修4回、法人研修4回と積極的に研修に参加した。毎月行う職員ミーティングやケアプラン会議は検討項目の要点を整理して時間の短縮に努めるなど効率的に開催した。実習生の受け入れによりコーチングスキルの向上につながった。

・安定した経営を継続する

今年度の平均稼働率は43.6%と目標の60%に大きく及ばなかったが、年度初めの30%台から徐々に上がり、3月は59.6%と目標に接近した。活動プログラムの見直しと毎月の営業活動による周知と他事業所との関係拡大の結果と思われる。

電子記録の導入により記録等の改善を行い業務の効率化をすすめた。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

ひやりはっと報告は数が減っていないが、報告しあう風土が定着してきた。処遇ノートを作成し「不適切ケア」についても報告や話し合いの機会を作っている。

I 利用者の状況

【利用状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	10	12	13	14	13	12	12	14	100
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8	8	8	28
要介護1	102	111	78	89	93	88	99	96	115	110	119	172	1272
要介護2	96	92	99	105	107	112	94	92	80	77	78	92	1124
要介護3	18	17	20	21	14	31	45	29	38	40	32	50	355
要介護4	0	2	2	11	10	11	2	2	2	0	3	7	52
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合 計	216	222	199	226	234	254	253	233	252	248	252	343	2932
営業日数	22	21	22	22	22	22	21	22	22	20	20	23	259
稼働率	39.3	35.8	36.2	41.1	42.5	46.2	50.3	42.4	45.8	49.6	50.4	59.6	44.9

【年齢構成】 令和3年3月31日 現在

年 齢	40～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人 数	0	3	3	14	6	26

【要介護度】 令和3年3月31日 現在

介護度	要支援1	要支援2				
人 数	0	0				
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	13	7	5	1	0	26

令和3年度 事業報告

在宅支援部
オパール居宅介護支援事業所

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

「興味・関心チェックシート」の活用は十分にできなかった。今後も、必要な利用者に対しては「興味・関心チェックシート」を使用して利用者が希望する生活を探る。
また、定期的に要介護のケアプランを事業所内でチェックする仕組みを作る。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

コロナウィルスの流行があり拠点となる活動は十分にはできなかった。
今後もコロナウィルスの流行は継続すると思われるため、地域に出る以外の方法で地域福祉の拠点となるべく広報紙など福祉の情報発信を行う方法を模索する。

- ・人が活きる職場環境を整備する

研修会や勉強会の参加は年 10 回以上参加できたが、居宅内での研修ができなかった。年 10 回以上の外部研修の参加は継続し、居宅内での研修を年 2 回、年間計画に入れて計画的に実施する。

- ・安定した経営を継続する

稼働率 95%の維持は施設入居や永眠等があり、達成できなかった。今後は営業活動の拡大と継続、FAX や訪問も含めた営業方法の模索を検討したい。また併せて新規利用者の受け入れも柔軟に行う。

I 利用者の状況

【年齢構成】 令和3年3月31日 現在

年 齢	～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合 計
人 数	0	6	7	25	11	49

【要介護度】 令和3年3月31日 現在

介護度	介護予防	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	19	12	11	4	1	2	49

【月別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護給付	34	34	34	34	34	32	30	29	25	28	28	28	370
介護予防	14	14	14	13	13	14	14	14	16	16	16	18	176
総合事業	4	4	4	3	4	4	4	4	5	4	2	4	46
計	52	52	52	50	51	50	48	47	46	48	46	50	592

II サービス利用状況

令和3年3月31日 現在

種 類	訪問介護	通所介護	短期入所	福祉用具貸与	その他	合 計
人 数	12	13	5	20	21	71
うち淳邦会利用		6	4			10

令和3年度 事業報告

在宅支援部
福田高齢者支援サブセンター

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

地域で生活する高齢者の相談を受ける時に、生活の中での困りごとがある場合は介護保険申請やサービス利用についての希望が出ることもや、また、話をする中で買い物に行くと荷物が運びにくいことやどこかに行くときに移動手段がないなどの話題が出ることも多い。今年度は訪問する時に住宅地図を持ってまわることで、買い物へ行く導線などから他の話を聞く機会を持つことができた。公的な制度だけではなく地域資源の情報も必要となる為、他の高齢者支援センターや地域の方たちからの新しい情報などを整理して情報提供できるように今後も務めていきたい。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

一時期よりは地域での活動も再開されているが、それも新型コロナウイルス感染症の状況により活動休止や規模の縮小は続いている。実際に活動を再開しても参加者が以前より少なくなったという話を聞くことも多い。感染症の今後の状況により以前のように地域で活動をできるか不明なこともあるが、閉じこもりやフレイルの予防のため、小規模の集まりや情報発信等地域活動の方法を今後も検討していきたい。

I 総合相談事業等実績報告

		電話	来所	訪問	その他	合計
介護予防事業		0	0	0	0	0
総合事業		0	0	0	0	0
予防給付		0	0	0	0	0
権利擁護		0	0	0	0	0
高齢者虐待	身体的	0	0	0	0	0
	経済的	0	0	0	0	0
	精神的	0	0	0	0	0
	性的	0	0	0	0	0
	介護放棄	0	0	0	0	0
福祉相談・手続代行		27	6	38	0	71
介護保険・手続き代行		12	0	3	0	15
健康・医療		24	1	35	0	60
高齢者以外を対象		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
合 計		63	7	76	0	146

令和3年度 事業報告

在宅支援部
グループホーム ひなぎく

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

コロナ感染症対策に、予防・検査・ワクチン接種を徹底的に行った。それにより、安全な日々を過ごしていただくことが出来た。毎年、定例となっていた行事が中止となり、面会・外出も出来ない日々が続いたが、ひなぎく独自で工夫を凝らし、個別対応やイベントで入居者一人ひとりと、一層深い関わりができた。疎遠となりがちだった家族と、繋がり続ける為、それぞれ担当職員が手紙や、新聞で繋がりを保てた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症の影響により、定期で行われる運営推進会議が中止となり、こちらからの情報発信のみとなってしまった。感染症対策をとりながら、実習生の受け入れは変わりなく、継続することが出来た。

・優秀な福祉人材を育成する

施設内研修には、可能であれば進んで参加していた。得た情報を持ち帰り、不参加者は確認した。2ヶ月に1度の「身体拘束・虐待防止」の勉強会を繰り返し行うことで、介護や接遇に対して意識を高めることが出来たと思う。次年度は、栄養・調理・感染症の学習も管理栄養士を中心に始めて行き、現場に役立てていきたい。

・安定した経営を継続する

空室状態を考えながら、入所相談・説明に適切な対応を行い、申込みにつなげた。そのことにより、早目の入居が可能であった。年度末に転倒骨折による長期入院が続いてしまい、稼働率は93.2%と目標に達することは出来なかったが、退院後は速やかに生活できるよう支援できた。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

防災時の動き、業務の流れ・手順のマニュアルを、それぞれ見直し新たに作成することにより、共有出来るようになった。重なる事故により原因・改善をしっかりと考え、事故減少に取り組む必要がある。

I 入居者の状況

【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	126	93	110	93	93	90	93	82	124	93	84	123	1204
要介護2	240	279	215	231	279	270	248	224	154	186	140	124	2590
要介護3	120	155	155	124	124	120	155	150	172	181	159	163	1778
要介護4	0	0	0	62	62	60	60	30	31	31	50	93	479
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	31	59
合 計	486	527	480	510	558	540	556	486	481	491	461	534	6110
人数／日	16.2	17.0	16.0	16.5	18.0	18.0	17.9	16.2	15.5	15.8	16.5	17.2	16.7
稼働率	90.0	94.4	88.8	94.4	100.0	100.0	99.6	90.0	86.2	88.0	91.4	95.6	93.2

注)入院者は除く

【要介護度】 令和3年3月31日 現在

介護度	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
人 数	0	4	4	6	3	1	2.58

【年齢構成】 令和3年3月31日 現在

年 齢	65～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人 数	2	8	7	17

令和3年度 事業報告

育成推進室

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

介護職員として現場で介護業務に当たる機会が増え、日々の関わりから利用者の理解を深め、ニーズ、課題を把握しチームでアプローチすることができた。

新規入職職員に対しては研修の時間を取りにくい状況のなか、マニュアルを充実させることにより対応した。未経験の職員、外国人介護士への指導が今後より重要になる。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

コロナウイルスの影響で毎年行ってきた地域との交流イベント「ふくふく堂」は中止となったが、倉敷市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターと情報共有を行った。コロナウイルスの影響で交流等機会の創出は出来なかったが、SNS の活用によりつながりが生まれ「淳邦会」を地域の方々に認識してもらうことが出来た。

- ・優秀な福祉人材を育成する

施設外研修への参加が難しいなか、外部講師を招いて施設内研修を行った。「高齢者虐待」「事故防止」「介護記録」それぞれのテーマごとに専門の外部講師を招き、学ぶことで共通理解を得ることが出来た。

- ・人が活きる職場環境を整備する

人員不足により職員の負担軽減が困難な状況であった。必要とする人材を確保し、やりがいを持てる職場環境作りを進めたが、正規職員の採用に課題を残した。

- ・安定した経営を継続する

職員の退職を防ぐと共にホームページ、SNS を活用した情報の発信、外国人介護士の受け入れの検討等、採用につながる新たな働きかけを行い、引き続き安定した経営に務めた。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

職員一人ひとりが自らの役割を担ううえで把握しておくべき法令を理解することを目指し、多方面から情報を収集し、伝達、共有することを心掛けた。